

M. S. 英語英文学科・2 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

幼い頃から英語を勉強していたので、留学には自然に興味を持つようになりました。中学生の時に短期海外研修に参加したことはありましたが、中長期の留学は、コロナの影響で応募するチャンスを逃してしまっていました。そのため、大学では留学に一度はチャレンジしてみようと決めていました。また協定留学は、大学 1 回生の時、クラスメイトが協定留学の出願準備をしているのを見たのがきっかけで、私も出願の準備を始めました。協定留学では語学研修だけでなく、自分の興味のある分野を大学で勉強できる点にも惹かれ、出願しました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

私の場合、出願を決めてから締め切りまで時間が少なかったので、IELTS の勉強も 2 週間程度で詰め込みました。1 回で目標スコアには達したのですが、もっと計画的に勉強すれば良かったと後悔しています。試験対策は、まとまった時間を確保できる時は基本的に過去問題を解いていました。特に Speaking と Writing については、過去問題を解く回数を重ねることと、数回ほど AI による採点も活用していました。Reading と Listening については、並行してインプットも行い、通学時間などを活用して取り組みました。

Reading：単語帳を読み込みました。最初に現在の自分がどのレベルの英単語なら意味を理解できるかを把握し、そのレベルよりも 1～2 段階上のレベルの単語を中心に勉強しました。

Listening：“Learning English with TV Series” という YouTube チャンネルの動画をひたすら視聴していました。聞き取りやすい英語は勿論、映画やドラマのワンシーンが題材なので、飽きずに勉強できたと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

特別な自主学習はせず、大学の授業をしっかり受けるよう心がけていました。特に AES で学んだエッセイの書き方などは、留学先での学習にそのまま生かせる事が出来たと思います。また、普段から SNS を通じて英語のコンテンツに触れるように努めていました。

◆ ビザ申請方法

国際課経由でエクセルエデュケーションというエージェント（オーストラリアの留学先大学との手続きをサポートする仲介会社）の学生ビザサポートサービスを利用し、助けをもらいながら申請しました。自身の必要情報をエージェントにお伝えして、申請・手続きを進めてもらうといった流れになります。

◆ その他

クレジットカード、SIM カード、航空券、常備薬の手配などを中心に進めました。不安要素を減らす為に、気になる事や質問事項がある場合は、必ず関係各所にメールなどで連絡して確認していました。また現地での履修登録も出発前に終わらせていました。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

エクセルエデュケーションさんから空港ピックアップを手配していただき、タクシー（Uber）を使って 30 分もしない間に滞在先に到着しました。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

気になったイベントには参加するようにしていました。新入生の welcome ceremony や図書館オリエンテーションなどに参加しました。またキャンパス内が広大なので、授業がある建物やカフェなどを探して回っていました。

◆ その他必要な諸手続き方法

3 ヶ月ほどの滞在だったので口座開設はしていません。現地到着前に保険の加入手続きは終わらせていきました。

⑤ 語学研修期間

語学研修期間なし

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

UNSW はキャンパスが広大です。本当に移動が大変で、キャンパス内なのに Google Map を使って場所を検索する程でした。またキャンパス内全体が坂の様になっているので、移動だけで運動になると思います。階段も多いです。しかしその分キャンパス内には勉強できるスペースや専門分野を学ぶ為の施設などが多くあり、学習環境は最高だったと思います。またキャンパス内にはレストランやカフェがあるのは勿論、クリニックや薬局、スーパーまで揃っていたので、大学の中だけで余裕で 1 日過ごせると思います。

◆ 履修科目について

・ ARTS1190 Sydney: History, Landscape, People

主に Sydney の歴史について学ぶ科目です。毎週トピックが決まっていて、Lecture では基礎知識などの講義、Tutorial では事前に読んできた関連資料についてディスカッションを行うといった流れです。関連資料については、毎回 20 ページ以内の読み物が 2 つほどあります。Tutorial ではその資料に基づいて 5 つ質問が設定されているので、その質問に答え

られるように準備をしてから授業に向かっていました。最終試験は無く Major Essay だけで、シドニーのある 1 つの場所を取り上げて 2000 字程度でまとめるといったものでした。最初の方は先生が早口で何を言っているのか聞き取れない事が多かったのですが、徐々に慣れてきて、最終的には自分の意見を発表できるようになりました。Reading と Listening が最も伸びる科目だと思います。

・ ARTS2065 Screen Production 2

映画制作について学ぶ科目です。こちら毎週トピックが決まっていて、Lecture では実際にその技法が用いられている映画を鑑賞するなどといった導入、Tutorial では Lecture で取り上げられた技法を用いて Short Film を撮影するといった流れになります。課題は主に 2 つあって、1 つ目は Digital といった自分の写真だけで構成された 2〜3 分程度の動画制作でした。撮影から編集まで自分で行ったので、大変だったけど高い評価をもらえたので嬉しかったです。2 つ目は Adapting A Classic といった、韓国映画・ドラマのワンシーンを切り取ってグループでリメイク作品を制作するものでした。私は特にこのリメイク制作が、この留学の中で一番の思い出だと思います。映画「コクソン」の制作グループに入り、本来は Art Director として衣装やセットデザインを担当する予定だったのですが、起用する俳優が不足していた為 Lead Actor も兼任しました。グループ全員で助け合いながら、夜の 11 時ぐらいまでキャンパス内のスタジオで撮影する日もありました。大変だったけど、とても楽しかったです。

・ ARTS2125 Acting and Performing

演技を学ぶ科目です。こちらは少し特殊で、前半週は Lecture と Tutorial、後半週は Lecture が Rehearsal に変わるといった形です。Lecture では 4 人(団体)の演劇論を学んで、Tutorial ではその演劇論を用いて実際にトレーニングをしたり演技をしたりします。中間では Major Essay の提出があり、その 4 人(団体)から 2 つ選んで 2000 字程度で比較するといった内容でした。後半週から 4 つの演劇論から 1 つ選び、その演劇論に沿ってグループで最終パフォーマンスの準備をしていきます。” Enron ” という台本からワンシーンを選んで、8 分以内のパフォーマンスをしました。私がいたグループは Stanislavsky という人が提唱した演劇論を用いて、パーティーシーンを準備しました。私は Roe というキャラクターを演じ、本番ではパフォーマンスの最中に観客席側から花道を通してステージに登場するといった全員の注目を浴びる役をしたので、非常に緊張しました。でもグループで 1 つのパフォーマンスを作り上げていく工程が楽しかったです。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

大学の勉強が忙しかったのでクラブや課外活動は殆ど出来ませんでした。唯一マットピラティスのクラスと留学生向けの英語教室みたいなものには数回参加しましたが、それ以外

は参加出来ず、少し後悔しています。ボランティアは学期末に 1 つ参加する予定でしたが、急に風邪を引いてしまったため、参加を見送ることにしました。

⑧ 現地での住まいについて

◆ 正規科目履修期間

私は、2 か所でホームステイをしました。

1 か所目のホームステイ先：一人部屋、ルームメイト無し、朝晩のみ食事提供

大学までの移動手段・時間：バス（乗り換え無し）、30 分程度

正規科目履修期間（3 ヶ月程度）お世話になった滞在先です。ホストマザーと 2 人きりで過ごしていました。お忙しい方だったので、土日はフルで一緒に過ごすという事は出来なかったのですが、晩ご飯を一緒に食べてその日の出来事を共有するのがとても楽しかったです。また「何でもやってみて！」といつも言ってくれて、留学中色々な事にチャレンジできたのは彼女のおかげだったと思います。夜に一緒にお散歩に行ったり、クラブに行ったりもしました。とても愛に溢れた方でした！

2 か所目のホームステイ先：一人部屋、ルームメイト 2 人、朝晩のみ食事提供（土日は昼も）

大学までの移動手段・時間：バス（乗り継ぎ 1 回）、50 分程度

以前のホストマザーがお孫さんの世話のために引っ越しをする関係で、帰国 1 ヶ月前程度こちらの滞在先でお世話になりました。4 人ご家族に加えて、私を含めて 3 人の留学生で過ごしました。最初の方は体調を崩してしまい、皆さんと交流できる機会は少なかったのですが、徐々に交流が増えていきました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

1 ターム留学なので実質長期休暇はありませんでしたが、授業が終わってから帰国までしばらくあったので、友達と遊んだり旅行に行ったりしました。中でも自分 1 人でニュージーランドに旅行に行ったことが一番の思い出です。中学校の頃から行きたかった Hobbiton という、映画「Hobbit」と「Lord of the Ring」の撮影地に行けたのが、本当に感激でした。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に取り組んでいません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

Screen Production2 のリメイク制作が最も思い出に残っています。私以外、Screen

Production1 を履修済みだったり個人で映像制作などを行ったりする経験者ばかりのグループに入りました。その中で自分がグループの足を引っ張らないようにするために、一生懸命取り組んでいましたがやはりストレスも感じていました。言語の壁もあり、自分の伝えたいことを正確に伝える事が非常に難しかったです。しかし途中から Art Director と Lead Actor も兼任するようになって、メンバーと交流する時間も増えて、皆から信頼を得たような感覚を覚えて非常に嬉しかったです。私がやった役は俳優の國村準さんが演じたキャラクターで、ネタバレを含むので詳しくは言えませんが、特殊メイクが必須な役でした。なのでメンバーの子達が私の特殊メイクを手伝ってくれて、完成したメイクを見ながら皆でワイワイしていたのも、大切な思い出です。この歳で、青春を感じる事が出来たと思います。めっちゃ楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

周りに知っている人が全く居なかった状況が一番つらかったと思います。留学を決めた時点で覚悟はしていましたが、やはり心から頼ることが出来る人達と離れていると思うと、不安になり気が遠くなりました。また大学の授業で求められるレベルが桁違いだなと思いました。英語で 20 ページの資料を読む、2000 字のレポートを書く事なんてやったことがなかったので苦労しました。でもこれらのつらかったことや苦労したことは、この留学での成長の糧になったともの凄く思っています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

特に大きなカルチャーショックはありませんでした。シドニーにいる人たちは殆ど出身がバラバラなので、異なる文化を認めつつ支え合っている感じがしました。文化の差で苦労した点はペットボトルの水が高いこと、バスのアナウンスが無いこと、シャワーできる時間が短い程度だと思います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点：自習スペースの場所が多いことだと思います。至る所に勉強できる場所があるので、お気に入りの場所を見つけたり気分によって場所を変えて勉強したり出来ます。またレストランやカフェが多い点も魅力の 1 つだと思います。安くて美味しいご飯を食べることが出来るので、授業が無い土日もお飯だけ食べに学校に行くことがありました。学外を出て Light Rail という路面電車みたいなものに乗れば、20 分程度でシドニーの中心街に行けるという立地の良さもあると思います。

悪かった点：移動が大変です。運動したくない日でも学校に行けば運動している気分になり

ます。また同じ出身地同士でグループを組んでいる傾向があるので、自然に他の国から来た子と仲良くなるというのは少ないかなと思います。そのほかは特に悪かったと思う点は無かったです。（悪かったというよりは個人的に苦労した点が上記になります。）

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン持参は必須です。UNSW は Moodle というサイトを通じて課題提出も含めた全ての管理を行い、また殆どの学生がオンライン媒体で授業のメモを取るのでパソコンは絶対持参だと思います。また現金支払いは殆ど無いので、クレジットカードは準備しておいた方が良いでしょう。最近は物価も高いので、2 枚あればお金の調節が出来て便利だと思います。他には O 型変換プラグ、常備薬、1 番好きなカップラーメンなどの持参がおすすめです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学的には、大学で専門分野の勉強をしたおかげで、短期間で急激に向上したと思います。基準として私は洋画を観るのが好きなのですが、留学前と比べて洋画を字幕なしである程度内容を理解できるようになりました。留学全般を通しては、自立と社交性を得る事ができたと思います。毎日分からない事だらけでしたが、留学前のようにすぐ誰かに頼るのではなく、一度自分で考えてから行動できるようになったと思います。また私は極度の人見知りだったのですが、この留学を通して 100%ではないですが 80%程度は克服できたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

まずは厳しい話からすると、協定留学は決して楽ではありません。SNS で流れてくるようなキラキラした海外生活というよりは、毎日朝 10 時から夕方 5 時まで勉強する生活が続ける感じになります。語学も含め全般的にアウェイな状況に置かれると思ってほしいです。でも、その分学ぼうとする姿勢や何事にも一生懸命取り組む事を心がけていれば、周りの人達が絶対自分の事を認めてくれるようになります。特にシドニーの人たちはみんな優しいし、自分の経験上、日本から来たと言って嫌な顔をする人は居ないです。なので、これから留学を目指す、または準備中の方々には、ある意味「プライドを捨てて」どんな些細な事でも周りの人に質問してみたり自分なりに挑戦を重ねたりする事を忘れないでほしいと思います。頑張ってください！！

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

在学中は「Shakespeare Production」に参加して、自分が学んできた事を生かすというのが目標です。卒業後は海外の人達と関わる職種に就きたいと考えています。またいずれは通訳案内士の資格を取って職業として、またはボランティアとしても良いので、来日した観光客の方々に日本の魅力を伝えていきたいとも考えています。

V. 写真



Screen Production 2 のリメイク撮影風景です。大学のスタジオで行いました。真ん中で毛布にくるまっているのが私です。周りで皆が撮影をしてくれました。



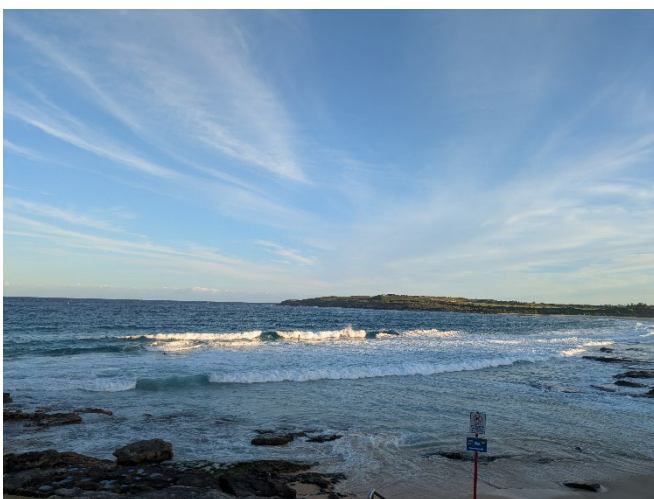
Acting and Performing の最終パフォーマンスの会場です。履修している全学生が集まって順番にパフォーマンスを披露しました。またこの場所は普段授業を受けていたスタジオでもあります。



留学中 1 番仲の良かった中国人の友達です。彼女も私と一緒にの学期から編入で、履修している科目が殆ど同じでした。なので互いに助け合いながら、美味しいご飯を食べに行ったり遊んだりしました。この写真は Luna park という遊園地の入り口で撮りました。



ニュージーランドに行ったときの写真です。Hobbiton に行って、ガイドさんに写真を撮ってもらいました。夢の場所だったので、終始ニヤニヤしていました。戻ることが出来るならもう一度戻りたいです。



シドニーはビーチが本当に多いのですが、この写真は私がシドニー到着後に初めて見たビーチの Maroubra Beach で撮ったものです。そこまで有名な場所ではないのですが、家から近かったので、ストレスを感じたり辛かったりするときは放課後にふらっと立ち寄っていました。他にもお気に入りのビーチが結構あります。